

選考経過

第44回中原悌二郎賞選考委員会は、6月21日に旭川市役所総合庁舎で開催されました。選考委員全員の出席のもと丁寧な論議と話し合いを続け、31名の作家まで絞った候補者の中から選ぶことにいたしました。

最近の彫刻作品の時代的傾向は多岐に渡っていて、それぞれの選考委員は作家を絞る段階で、いささか戸惑いを感じながら、意見交換を繰り返しました。その結果、まさに今日的な時代を象徴的に意味づける藤原千也氏の《太陽のふね》が、中原悌二郎賞にふさわしいという意見が主流を占めて、結果的に今回の受賞作となりました。

この作品は、先に開催された第4回本郷新記念札幌彫刻賞に選ばれたことを期に札幌芸術の森美術館の中庭に展示されることになった作品ですが、スケールの大きさといい、存在感といい、実にダイナミックな作品で、強い印象を付与する優れた彫刻作品になっていました。例えば、マヤの古代遺跡やインカの古代遺跡の宇宙との交信の一端を彷彿とさせるとか、あるいはストーンヘンジの神秘的な空間を思い起こさせるような喚起力を持つ不思議な魅力を蔵しておりました。さらには、審査結果が選考委員の意図ではなく、北海道の作家が本賞を受賞することは、長い歴史のある中原悌二郎賞において初めてのことだと聞かされ、選考委員一同も驚いた次第です。それだけではなく、藤原氏がもつ潜在的な仕事の意義が、これからの彫刻に興味ある若い作家たちにも、大いなる刺激を付与することになり得るのではないか、と言った選考委員もおりました。

いずれにせよ、これが中原悌二郎賞の存在意義を高めるであろう受賞者として、藤原千也氏を選んだ理由であります。

中原悌二郎賞選考委員長 酒井 忠康